



平成24年度出雲市生涯学習講座

出雲國コース

受講者:39名

平成24年5月～2月までの期間、毎月1回開催した「コース講座」です。出雲神話、伝統工芸、歴史、文化などについて学び、私たちの愛する出雲の魅力を見つめなおしました。人と知識、人と体験、人と場所、学びの「縁」をむすんでいくコース講座です。

回	開催日	講座内容	時間	講師	会場
①	5/27 (日)	<開講式> 出雲神話学への招待	9:30 ～ 12:00	島根県立古代出雲歴史博物館 専門学芸員 森田 喜久男 氏	出雲弥生の森博物館
②	6/24 (日)	出雲の伝統工芸「筒描藍染」の筒描を体験しよう	9:30 ～ 12:00	長田染工場 4代目 長田 茂伸 氏	
③	7/8 (日)	風土記時代の役所跡 ～楯縫郡・出雲郡・神門郡を中心として～	10:00 ～ 12:00	出雲弥生の森博物館 宍道 年弘 氏	
④	8/26 (日)	神楽の笛、世界の笛、浪漫紀行	10:00 ～ 12:00	笛作家 樋野 達夫 氏	
⑤	9/30 (日)	<フィールドワーク> 鎮守さんに神々を尋ねて	9:00 ～ 16:00	長浜神社 宮司 秦 和憲 氏	市内6箇所 神社仏閣
⑥	10/28 (日)	神在月とぜんざい	10:00 ～ 12:00	出雲ぜんざい学会 会長 田邊 達也 氏	出雲弥生の森博物館
⑦	11/25 (日)	出雲の神在祭 ～神集う神社と祭儀～	10:00 ～ 12:00	島根県神社庁 参事 / 万九千神社 宮司 錦田 剛志 氏	万九千神社
⑧	12/23 (日)	古代出雲の食の魅力	10:00 ～ 12:00	島根県日本調理技能士会 会長 安田 政男 氏	出雲弥生の森博物館
⑨	1/27 (日)	正月の民話に潜む古代信仰 「神々の運定め」「慌て者の大社参り」	10:00 ～ 12:00	山陰民俗学会 会長 酒井 董美 氏 いずも民話の会のみなさん	
⑩	2/24 (日)	出雲を学ぶ ～今知りたい出雲の魅力～ <閉講式>	9:30 ～ 12:00	荒神谷博物館 館長 藤岡 大拙 氏	

受講者の声

- 出雲に住んで50年、今回の企画に出会って本当に良かったと思っています。第1回目の森田先生のお話から、古代に対する興味をいよいよ深くしました。そして、回を重ねる毎に出雲の歴史、神々のこと、工芸など色々な分野の奥深さを知ることができ、楽しい1年間でした。
- 出雲神話の文化が今の出雲にどんなふう生きついているのか、よくわかりました。出雲は興味深い地域だと思いました。
- 古代の出雲の話題など出た事もなかったが、自分が少し学んでみて話すきっかけとなった。話してみると案外に関心がある人もいたりして良かったと思う。弥生の森に行ってみたらと勧める事もできた。自分自身まだまだなのでこれからも参加してみたいと思います。
- 出雲には何とすばらしい文化、伝統、神話などたくさんある事を教わり、この地で生まれ育った事を誇りに思います。今まで知らなかったこと分らなかった事たくさん教えていただきました。教わった事の一つ一つに思いをはせながらゆっくり歩いてみたいと思います。
- 広報で応募を知り主人と参加させてもらいました。毎回毎回知らなかった事を経験させてもらい有難うございました。筒描の体験、心にしみる笛、バスで巡った全く知らない小さなお宮といわれ、途中お弁当を食べた斐川環境学習センターの懐かしい校舎跡、古代食もとても興味が有り、昔を知ることが出来ました。今迄も色々な講座を受講しましたが今回は特に心に残る毎回でとても良かったです。
- 一番大きな収穫は、この出雲という地域が歴史上の大舞台で欠くことの出来ない地であると再認識できたことである。ロマンあふれた魅力あるこの出雲を後世に引継ぎ伝承していかなければならないという思いも改めてわいてきた。今一度、今回の受講を機会として、地域の神社、地名、いわれ等々に興味関心を持ち、先人に思いをはせながら日々の暮らしに知恵や技術が活かせるよう努めたい。

出雲神話学への招待

日時：5月27日(日) 9時45分～11時45分

※講座全体時間は9時30分～12時00分。
講演の前に開講式を行いました。

講師：島根県立古代出雲歴史博物館 専門学芸員 森田 喜久男 氏

会場：出雲弥生の森博物館

島根県立古代出雲歴史博物館 専門学芸員 森田喜久男氏より、出雲市民にとっては身近な存在ともいえる神話が、古事記編纂から1,300年間の時を超えて私たちに投げかけているメッセージについて、神話とは何か、神話に隠された意味まで、熱意溢れるお話を聞かせていただきました。

一式飾り(イザナギとイザナミ)



受講者の声

- ・神話の意味するところ、メッセージを投げかけている事など分かりやすくお話いただき、改めて神話を読みなおし私なりに考えてみたいと思いました。
- ・出雲神話の深層に迫る解説は今後の古代史を学ぶ上での基礎とし、手持ちの稚拙な知識と組み合わせ整理したいと思っている。
- ・出雲神話は出雲だけのものではなく、須佐男命は全国で祀られている。
- ・古事記のを中心にして、神話の中だけの存在だった神様達に親しみが湧いてきました。奥が深いなという印象をもちました。
- ・神話の内容、見方を詳しく話していただいて、表面的な理解しかしていなかったということが分かって非常にすっきりしました。今後も本などを読み子どもたちや県外の人たちにもできるだけ正しい内容を話したいと思います。

つづがきあいぞめ
出雲の伝統工芸「筒描藍染」の
筒描を体験しよう

日時：6月24日(日) 9時30分～12時00分

講師：長田染工場 4代目 長田 茂伸 氏

会場：出雲弥生の森博物館

出雲の伝統工芸「筒描藍染」。現在出雲地方でただ一軒となった紺屋の4代目、長田茂伸先生から昔ながらの染物の特徴や伝統工芸についてお話を伺ったあと、「筒描藍染」の「筒描」の体験をさせていただきました。後日先生にお店で染め上げ完成させていただいた筒描藍染のハンカチは受講者の皆様の宝物になりました。



受講者の声

- ・おもしろかった。町のお店の商品に親しみを感じるようになった。
- ・藍染の伝統的な良さを実感することができました。
- ・初めての体験でした。筒描の意味も知らずに参加しました。こんなに難しい仕事を長年続けておられることに感動しました。
- ・古きよきもの改めて肝に銘じました。先生の細やかなご指導でとてもよく分かりました。ただ理屈だけでなく体験を重ねることで工芸のよさを実感することも出来ました。貴重な体験をありがとうございました。
- ・一生に一度の体験。下書きも糊置きもなかなかうまくゆかず、手が震えてしまいました。改めて長田さんの技量に感動いたしました。未永く残していきたい工芸ですね。

風土記時代の役所跡 ～縦縫郡・出雲郡・神門郡を中心として～

日時：7月8日(日) 10時00分～12時00分

講師：出雲弥生の森博物館 宍道 年弘 氏

会場：出雲弥生の森博物館

古代の出雲について、出雲國風土記に登場する郡家(※今で言うところの市役所)の話を中心に、遺跡の調査結果の資料を使い詳しく説明していただいた。学校ではあまり教わらない身近な土地の歴史について学べ、かつ出雲國風土記の読解にも役立つ有意義な講義でした。



受講者の声

- 私たちの住んでいる出雲に、こんなに貴重な遺跡がたくさんあることが分かり、大変うれしく思いました。関連のお話、もっと深く聞きたいです。
- 今まで知らなかったお話をお聞きし、自分にとってとても貴重な時間でした。「何も知らなかった」私ではなく、これからは身近に自分のものにしていきたいと思います。
- 1896年からの「斐川郡」と新出雲市がほぼ同じ領域という事実には歴史的な深い因縁を感じた。何千年前の「風土記」の記述の正確さには驚いた。
- 斐伊川の土手を散歩するとき、かつてのいずもおおかわの名を思い出し、過ぎ去った時代の東へ西へ向かう道について思いをはせたりします。

神楽の笛、世界の笛、浪漫紀行

日時：8月26日(日) 10時00分～12時00分

講師：笛作家 樋野 達夫 氏

会場：出雲弥生の森博物館

講師が独学で始めた笛の製作と演奏。今までの活動紹介、神楽で使われている笛から世界各地の風土に根ざした独特な笛まで、その笛の持つ意味や作り方の紹介をそれぞれの笛のすばらしい演奏を交えながら話していただきました。

アリランに

なりきりて デイグム吹く講師

音色うつりて 笛紀行終ふ

(受講者作品)



ライン川の

広き流れを 瞑想し

聴き入る世界の 笛のロマンを

(受講者作品)



受講者の声

- ・出雲の名工。笛の世界の奥深さを教えていただきました。
- ・音色、どれも素晴らしく心が洗われる思いがしました。この音色を神々も古代の人たちも、そして地球上の人々全てが心を和ませたことを思うとき、守り受け継ぐ必要を感じました。
- ・身近な材料で自由自在にすばらしい音色をだされるのには感動した。音楽を通して、現代のように楽譜から学ぶ正確さより、プロセスを大事にして自分の思い、一生懸命さを伝えることが大事だと言われたことが心に残った。
- ・おもしろかった。感動しました。最初に奥が深いと言われましたが、本当にそうですね。今まで知らずに耳にしていた笛の音にもいろいろ意味があり、ルーツがあることに驚きました。これから神楽などを見ても違った見方が出来ると楽しみです。
- ・笛の音色の心地良さは古代から受継いできた人間の感性と思う。

<フィールドワーク> 鎮守さんに神々を尋ねて

日時：9月30日(日) 9時00分～16時00分

講師：長浜神社 宮司 ^{はだ} 秦 ^{かずのり} 和憲 氏

会場：市内各所

長浜神社の秦宮司の案内で須佐神社(佐田町)火守神社(宇那手町)出西八幡宮(斐川町)鹿島神社(武志町)湊社(大社町)華蔵寺(多伎町)の市内6箇所(みなのやしろ)の神社仏閣(けぞうじ)をバスで巡りました。全国的に有名で何度も訪れている神社から小さなお宮まで、いわれや独特な神事など現地ならではの雰囲気を楽しみながら学びました。



<華蔵寺 弁天堂>



華蔵寺 住職 斉藤雅信 氏



<湊社>



<須佐神社>

受講者の声

- ・地元の神社でも知らないところだらけだな、と実感しました。私は大社町に住んでいますが、湊社も「身逃げ神事」も知らなかった。いろいろと見て歩いて楽しかったです。
- ・フィールドワーク、地元を巡る=普段違うところも専門家(宮司)のお話により一層深まりました。
- ・はじめてお参りする神社が多く良かったです。昼食のため訪れた元出西小学校、斐川環境学習センターが70を過ぎて見ることができたことも大変懐かしく思いました。
- ・一村一社の氏神神社での実習でフィールドワークのよさを味わい、氏神と氏子の絆の深さを実感しながら参拝できた。
- ・各神社それぞれ違う神様が祭られ、歴史をふんで今日に至っていることが興味深かった。今後神社を参拝した際は、もっと関心を持つよう努めたい。

神在月とぜんざい

日時：10月28日(日) 10時00分～12時00分

講師：出雲ぜんざい学会 会長 ^{たなべ}田邊 達也 氏

会場：出雲弥生の森博物館

出雲発祥の「ぜんざい」で出雲地域を元気にしようと頑張る出雲ぜんざい学会。出雲がぜんざい発祥の地とする根拠、ルーツ、いわれ、地域差などと最近の活動のお話をうかがいました。参加者、スタッフともに会長の熱意に「自分も地域の為に何かしたい!」と思うことができました。そして美味しいぜんざいも頂きました。

ぜんざいは「神在餅(じんざいもち)の訛(なまり)とふ

神話に生かされ息吹くおおやしろ(大社)



受講者の声

- ぜんざいでどんな話があるのか楽しみだった。田邊さんの「ぜんざい」「町おこし」に対する情熱に感動した。
- 町づくりにかける会長の熱意、心情が伝わり、我々もささやかながら努力しなければと強く思いました。今後とも活躍されることを願っています。
- 出雲ぜんざいを出雲ブランドとして立ち上げ、みごとに神門通りをよみがえらせた田邊さんに何か男のロマンを感じました。
- 出雲の街をここまで愛した団体と知り感動いたしました。遅ればせながらもっと出雲を愛していこうと思えました。

出雲の神在祭 ～神集う神社と祭儀～

日時：11月25日(日) 10時00分～12時00分

講師：島根県神社庁 参事 / 万九千神社 宮司 錦田 剛志 氏

会場：万九千神社

神在月に全国から参集なされた神様がまた全国へ旅立たれる場所である万九千神社を会場に、万九千神社宮司錦田剛志氏から神在月に神様が出雲市に参集する理由、神在祭の祭儀などについて分かりやすい資料を使って説明していただきました。



神集う
万九千神社の神官の

警蹕に
そつと息の縁祈る

※警蹕…先払の声。〈けいひち〉ともいう。天皇が公式の席で、着座、起座の際、行幸時に殿舎等の出入りの際、天皇に食膳を供える際などに、まわりをいましめ、先払をするため側近者の発する声をいう。身近な例としては地鎮祭などに行われる降神や昇神などに際し、神職が発する「オー」という声。

受講者の声

- ・出雲に住む人間として知らなかったことがあまりに多いことを認識。今日のお話は感激しました。
- ・大変おもしろく、国の原点というものを聞かせて頂き、とても良かったです。出雲の地に生まれたことを誇りに思います。
- ・「神在祭」の歴史は、平安時代にまでさかのぼるという講師のお話を聞き、出雲の歴史の古さを再認識し、誇りに思った。
- ・出雲は丁度神在月、神社の胡床こしろうに座し、宮司のオーという警蹕けいひちを緊張して聞きました。

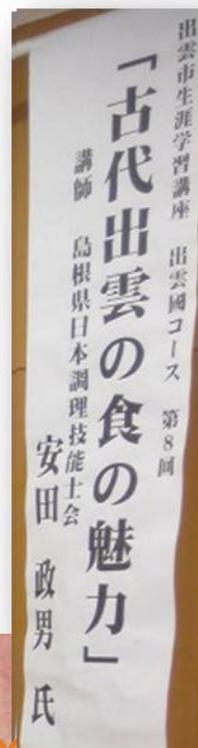
古代出雲の食の魅力

日時：12月23日(日) 10時00分～12時00分

講師：島根県日本調理技能士会 会長 安田 政男 氏

会場：出雲弥生の森博物館

現在に残る文献を元に講師が古代出雲歴史博物館の学芸員の方と復刻された古代食。古代の書物を苦勞して読み解き、現在ある食材で作り上げることの難しさ、古代食の持つ魅力、現代食との違いをお聞きしました。復元された古代食を実際に食べながらお話を聞くことで古代への思いを馳せることが出来ました。



1 搔餅 (かいもち)

2 以利毛乃 (いりもの)

3 鹿尾菜 (ひじき)

4 栄螺子 (さざえ)

5 蛤貝飯 (うむかい)

6 蟻蝿蓂荷香味 (たごめ)

7 波知須之禰鰯鰯揚 (はちすのねえび)

8 須受枳久呂意木炭 (すずきくろむぎ)

9 牟奈岐飯 (むなぎい)

一、汁美蘇加豆平以呂利毛都久葱 (みそかっおいろりもづくき)

受講者の声

- ・出雲に伝わる食材の由来、歴史につながる作法など、とても興味深く聞かせて頂きました。
- ・古代食の何と食材の豊富なこと。現代の我々も見習わねば。復元なされたとのこと、私たちも昔の時代に戻って現代の食生活考えたいものです。
- ・「古いものは新しい」と思いました。地産地消。スローフードで(旬のものを丁寧に調理)。添加物は使わない。あっさりとした和食。植物性のものを多く。そして多分、医食同源。そして作ってくださった皆さんに感謝していただきました。
- ・古代食復元献立を堪能し悠久に思いを馳せた。現代より味は甘いとの事・古代人は肉体労働でカライかと思っていた。
- ・古代に夢をはせ、ときどき古代食を食べる会があればいいなと思いました。
- ・「おもてなし」料理、まさにご馳走！これに一夜酒があれば大宴会、盛り上がり間違いなし！

正月の民話に潜む古代信仰 —「神々の運定め」ほか—

日時：1月27日(日) 10時00分～12時00分

講師：山陰民俗学会 会長 酒井 董美 氏

いずも民話の会 多々納 テル子 氏、花田 敦子 氏

会場：出雲弥生の森博物館

民話の奥に隠された祖霊信仰や言霊信仰、各地で伝わる同系列の民話の解説を講師自らが長い月日をかけて集められ貴重な録音資料や映像でわかりやすくお話いただいた。講座の後半は民話の語りを各地で行っておられるいずも民話の会のお二人に「慌て者の大社参り」「神々の運定め」の語りを聞かせて頂きました。



受講者の声

- ・出雲で生まれ、出雲で育った私にとって、とても親しみやすく楽しいお話、うたでありましたので引き込まれてしまいました。
- ・昔話といえば「あまり内容のない教訓じみたもの」という印象を持っていましたが、後世に伝えるメッセージがたくさん込められたものであるということ、「言霊信仰」が基盤にあることなど、見方考え方を改めることができました。子どもたちにも話して聞かせようと思います。
- ・出雲弁の語りが良かったですね。またこのようなものを残して行く事の大切さを知りました。
- ・出雲弁での昔話は情を誘い、遠い幼児の頃を思い出し懐かしく聞き入りました。これを機に民話本でもひもときたい気分になりました。
- ・出雲弁のひびきに、ほっとする時間をもてました。

出雲を学ぶ —今知りたい出雲の魅力—

日時：2月24日(日) 10時40分～11時40分

※講座全体時間は9時30分～12時00分。

第1回～9回までのふりかえりと閉講式を行いました。

講師：荒神谷博物館館長 藤岡 大拙 氏

会場：出雲弥生の森博物館

出雲人の気質、出雲の歴史、風土、文化についてとても分かりやすくお話していただきました。他に誇れるものを沢山持った出雲という國をもっと知り、もっと自信を持って魅力発信していきたいと思えるお話でした。



受講者の声

- ・出雲の素晴らしさを勉強し、自分の住んでいるところを自信を持ってアピールできそうな気がしました。
- ・藤岡先生の大変熱の入ったお話に共感しました。本当にもっともっと自信を持って出雲をアピールしていたらいいなと思いました。
- ・もっと感性を磨き、この素晴らしい地を愛していきたいと思う。
- ・ユーモラスな語り口の中に出雲人の美徳というか保守的なところも改めて認識できました。楽しかったです。
- ・内容、話術共に素晴らしかった。よきフィナーレでした。